
第23回国際労働問題シンポジウム

仕事の創出 新しい雇用戦略をめぐる

特集にあたって

2010年10月5日（火）、第23回国際労働問題シンポジウムが、国連大学ビルのエリザベスローズ・ホールで開催された。1987年に始まったこのシンポジウムは、2003年以降ILO駐日事務所と法政大学大原社会問題研究所の共催、（財）日本ILO協会の後援で開催されている。

シンポジウムは原則として、その年のILO総会で取り上げられた議題の一つを選んでテーマとし、討議に参加した政府および労使の代表から報告を受け、これに関する学識経験者による報告やパネリスト間の意見交換、フロアーからの質疑応答を行うかたちで実施されてきた。第23回国際労働問題シンポジウムは、2010年6月の第99回ILO総会で取り上げられた議題のうち、第6議題である「雇用に関する戦略的目標についての討議」をテーマとして開催された。これは、ILOが掲げるディーセント・ワーク課題の4つの戦略目標の一つである「仕事の創出」に関する審議で、2008年の総会で採択された「公正なグローバル化のための社会正義に関するILO宣言」のフォローアップとして実施された。この議題を取り上げることによって、危機からの回復に焦点を当てた今年のシンポジウムに対し、中長期的な仕事の創出について議論を深めることが今年のねらいであった。

幸い、このテーマは多くの人々の関心を集め、その顔ぶれも、研究者や学生、労働組合関係者、企業関係者、NPO関係者やマスコミ関係者など極めて多彩であった。共催および後援のILO駐日事務所、（財）日本ILO協会のご尽力の賜物であろう。両団体に改めて謝意を表したい。最後になるが、パネリストをはじめご参加いただいた方々などすべての関係者に、心からお礼を申し上げたい。本シンポジウムでの政労使代表および学識経験者の率直な討論・意見交換が、日本の雇用問題をめぐる今後の展開に資するものとなるよう期待してやまない。

（榎 一江）

第23回国際労働問題シンポジウム

仕事の創出 新しい雇用戦略をめぐる

共催 法政大学大原社会問題研究所
ILO駐日事務所
後援 （財）日本ILO協会

日時 2010年10月5日（火）13時～17時30分
会場 国連大学ビル エリザベスローズ・ホール

司会
2010年のILO総会について
日本の雇用戦略について
政府の立場から
使用者の立場から
労働者の立場から

法政大学大原社会問題研究所准教授 榎 一江
ILO駐日代表 長谷川 真一
経済産業研究所上席研究員 鶴 光太郎
厚生労働省職業安定局雇用政策課課長補佐 渡邊 学
日本経済団体連合会国際協力本部主幹 高澤 滝夫
日本労働組合総連合会総合労働局長 新谷 信幸

（注）肩書きは2010年7月現在